

小中学生が利用しているインターネットサービスの類型化

Typology of Internet Services Used by Elementary and Junior High School Students

水野 一成

Kazunari MIZUNO

近藤 勢津子

Setsuko KONDO

吉良 文夫

Fumio KIRA

NTT ドコモ モバイル社会研究所

NTT DOCOMO Mobile Society Research Institute

＜あらまし＞ 小中学生の 98.0%が情報機器を利用し、さまざまなサービスを楽しんでいる。本研究では、これらのサービスの類型化を試みるために、数量化理論第Ⅲ類を用いて分析を実施。その結果、サービスを「動画・ゲーム」「SNS」「LINE」「学習」「生成 AI」という 5 つのカテゴリーに分類することができた。さらに、それぞれのサービスの特性に基づき「学習・探索」と「生成・発信（能動）」という 2 つの軸を導出した。本稿では、これらの軸と子ども及び親の属性との関連性について考察を行う。

＜キーワード＞ 小中学生、ICT サービス、多変量解析

1. 研究背景及び目的

NTT ドコモ モバイル社会研究所が 2023 年 11 月に調査した結果（調査概要は項番 2 で説明）では、スマートフォン（以下、スマホ）、タブレット、パソコンの利用率は図 1 の通りで、この 3 つの情報機器のいずれも利用していない割合は、小学生低学年は 2.1%、高学年は 3.4%、中学生では 0.5%と少なく、多くの小中学生が情報機器を利用している。

そうした状況の中、本稿では情報機器を利用している小中学生がどのようなサービスを利用しているかを分析し、その利用傾向に基づいてサービスを類型化することを目的とする。また、類型化の結果に基づき、いくつかの属性（子の学年・子の成績・子のインターネット利用時間）を考察することで、各サービスの特性についても検討する。

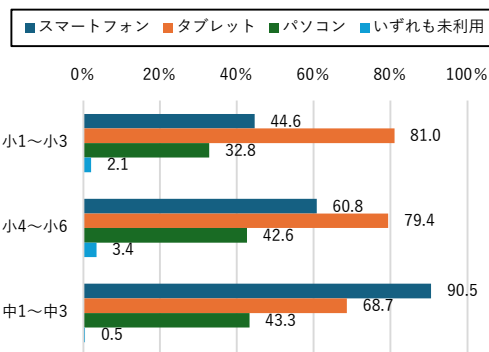


図 1 ICT 機器利用率

2. 調査概要

調査時期：2023 年 11 月

調査対象：関東 1 都 6 県、
小中学生の親と子

調査方法：訪問留置調査

標本抽出法：QUOTA SAMPLING

性別(5 歳刻み)・学年・エリア・
都市規模で割付

回答数：600

3. 分析

3.1. 利用サービス

小中学生に 10 のサービスの中で利用しているサービスを答えてもらった。その結果を図 2 に示す。YouTube の利用率は 9 割を超え、この中のサービスでは最も高い結果であった。

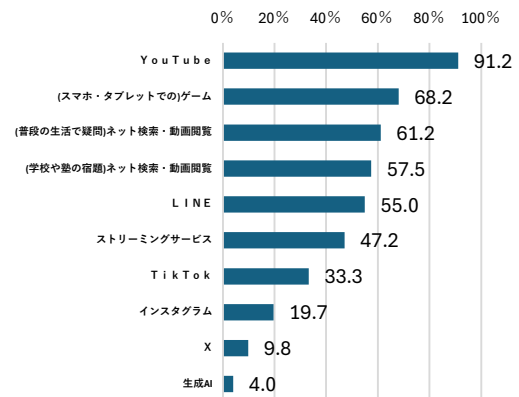


図 2 ICT サービスの利用率

3.2. ICT サービスの利用を基にした類型化

サービス利用に関する調査結果を基に、数量化理論Ⅲ類を用いて類型化を行った。その結果、図3の通り、「動画・ゲーム」「SNS」「LINE」「学習」「生成AI」の5つのカテゴリーに分類することができた。各サービスの特徴に基づき、横軸（第1軸）は非生成・非発信（受動）から生成・発信（能動）を、縦軸（第2軸）は非学習・非探索から学習・探索を表す軸として解釈した。

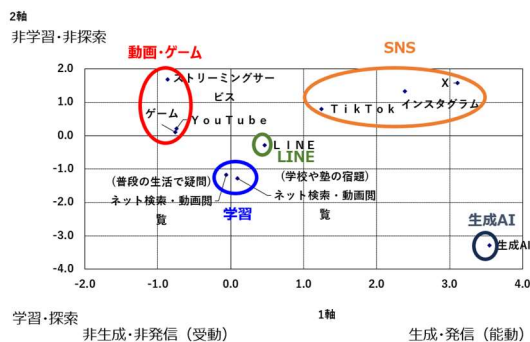


図3 ICTサービスの類型化

4. 考察

図3で作成した軸に「学年」「学校の成績」「子のインターネット利用時間」を重ねて見ること、特性の分析を行った。

図4では学年の要素を加えた結果を示す。学年が上がるにつれて、横軸における変化が顕著であり、「非生成・非発信（受動）」から「生成・発信（能動）」に移行していく傾向が見受けられた。

続いて「学校での成績」を重ねた結果を図5に示す。2軸の差が大きく、成績が上位であると回答した子どもは「学習・探索」に傾く傾向が見られた。

最後に「子のインターネット利用時間」を分析した結果、U字型の傾向であった。「短い」インターネット利用時間の子どもは、「非生成・非発信（受動）」の傾向が強く、「やや短い」子どもは「学習・探索」および「生成・発信（能動）」にシフトしていく。さらに利用時間が長くなると、より「生成・発信（能動）」および「非学習・非探索」の傾向が見られる。インターネット利用時間は、インターネットを利用開始した時期と関連しており、そのことが今回の結果に繋がっ

た可能性がある。具体的には、インターネット利用開始時には「動画・ゲーム」が利用され、その後「学習」が加わり、さらに「SNS」の利用が加わるといった流れが想定される。

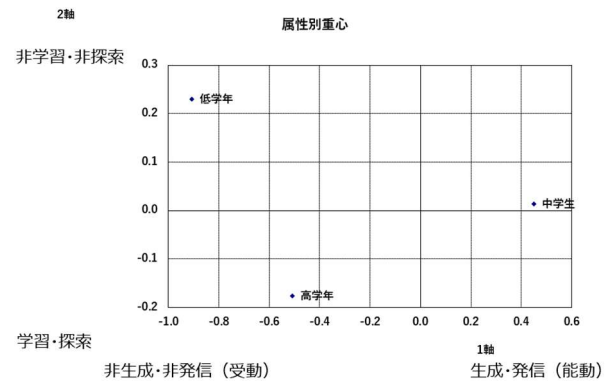


図4 ICTサービスの類型化と学年

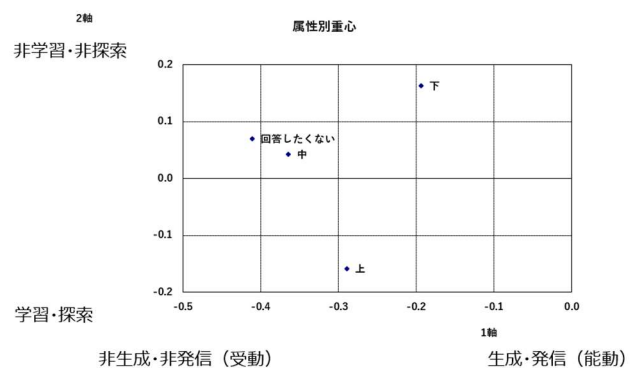


図5 ICTサービスの類型化と成績

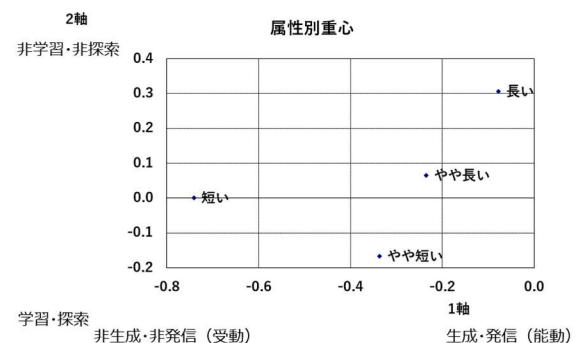


図6 ICTサービスの類型化とインターネット利用時間

サービスの利用の増減（普及）と伴に、今回の分析結果は変わっていくと思われる。例えば、生成AIは他のサービスと異なる傾向が見られた。ただ、今後普及した時にどのように変わるか、引き続き調査を続けていく。